

「人形劇のまち飯田」の季刊情報誌

Autumn 2024

Vol.47

Dogushi

胴串 -どくし-

特集

飯田と春川とのつながり深め
韓国春川人形劇祭へ

CLAY

飯田と春川とのつながり深め 韓国 春川人形劇祭へ

いい人形劇フェスタと友好提携を結ぶ韓国の「春川人形劇祭」。近年、相互のスタッフが交流を図り、今夏は春川から小学生劇団が上演、同祭事務局が視察で飯田を訪れました。8月29日から9月4日までの日程で開催された春川人形劇祭に、同フェスタを代表して実行委員長の原田雅弘さんが視察と交流を兼ねて訪ねました。



右奥が春川人形劇場。今年はこの鍵穴を通り抜けないと参加できない？

8月下旬から9月初旬に開催された第36回春川人形劇祭に参加してきました。春川人形劇祭といったら人形劇フェスタは、アジア最大級の人形劇祭として、共に更なる発展を目指して交流を進めています。春川に到着した日は「Puppet Carnival」に参加しました。今回は、パレードの一員としての参加。パレード中、よほど疲れて見えたのか、何人ものスタッフが「大丈夫か？」と声をかけてくれ、ゴール地点では、「タクシーを手配するからここで休んでください」とタクシーに乗り込むまでスタッフが付き添ってくれました。



「Puppet Carnival」多くの市民も楽しんでいました



「Art Market」それぞれの劇団がブースを設けてPR。子どもたちも人形を手にとって楽しんでいました。ミニパフォーマンスも楽しめました



翌日の夜は「Art Market」。多くの劇団がブースを設営して、手持ちの演目のPRを行います。短時間ではありますが、それぞれのパフォーマンスを観ることもでき、話を聞いたり、資料をいただいたりして関係を結ぶことができます。これは、劇団と公演を行う側どちらにもメリットのある大変有意義な企画だと思います。こうした機会をフェスタでも取り入れられないか、真剣に検討してみる価値があると感じました。

3日目は「戦争、人種、宗教、貧富の格差、環境問題など、現代の分裂や紛争の中で実際に行われている人形劇の実例を共有することで、人形劇（舞台芸術）がグローバルコミュニティの構築に果たす役割について探る」という「Global Forum」に参加しました。ボスニア・ヘルツェゴビナ、光州、沖縄と、戦火や抑圧に曝された経験を持つ皆さんが、人形劇や舞台芸術で過去を乗り越えてゆこうという思いと取り組みの発表とUNIMAの取り組みの報告を受け、私たちに何ができるのか、深く考えさせられる時間でした。



「Global Forum」光州蜂起の犠牲者のご家族と共に催されたイベントの報告



エンディングのセレモニーでスタッフたちに感謝を捧げます



2025年UNIMA世界大会の調印式

春川人形劇祭と、沖縄りっかりっかフェスタの共同制作中間発表

春川人形劇祭最終日、朝一番で転倒するという最悪のスタート。眼鏡が壊れたけれど、すぐに眼鏡屋で応急修理が受けられ、その後の日程に復帰することができました。この日は、来年春川で行われるUNIMA世界大会に向け、春川と沖縄のりっかりっかフェスタが共同制作している作品を観ることができました。まだ未完成ですが、大いに期待を持たせてくれる作品でした。

春川フェスの最後を飾る「Cocobau Award」。初めて参加しましたが、まず冒頭にその場にいるスタッフ全員をステージに上げて、その労を思い感謝を伝えるセレ

モニーが行われました。こうした手厚い配慮も、春川の素晴らしいホスピタリティの一因なのではないでしょうか。

いくつかのアクシデントはありましたが、今年の春川フェスでも学ぶべきもの、フェスタにも取り入れたいものをいくつも見出すことができました。春川とのつながりをより深め、飯田と春川、お互いがさらに前進できること、そして来年のUNIMA世界大会の成功を祈念して報告いたします。

いい人形劇フェスタ実行委員長
原田 雅弘

真夏の暑い日差しに負けず飯田へ

人形劇団赤とんぼ 小松義春



いいだ人形劇フェスタ2024での上演後に劇団員たちと。写真上段右が筆者

宿泊先の公民館でプロもアマも膝を交えて作品の感想や批評を聞いたり、人形劇について深夜まで語り明かした交流の場に魅せられ通い続けた人形劇カーニバル。他県の人形劇人との出会いや地元の人達との温かい交流は毎回新生に満ちていました。

1970年代は各地で人形劇フェスが盛んに開催されていました。そんな中で全国の人形劇人をアマ・プロ分け隔てなく一同集まれる場をと立ち上げたのが

第36回 すべての道は 飯田へ通ず



上演後は観客のみなさんに人形や舞台を見てもらい、交流します(いいだ人形劇フェスタ2024/飯田文化会館2Fにて)

人形劇カーニバルでした。飯田を『人形劇のまちに』と有志が集まり地元の人達との協力のもとで出発し20回を節目に幕を下ろし、装いも新たに『いいだ人形劇フェスタ』にバトンタッチされ26年早いものですね。文字どおり夏の風物詩になった『いいだ人形劇フェスタ』。地区の人達の温かなおもてなしに心えようと上演に熱がはいります。また他劇団とのジョイント上演も魅力です。

私の住む諏訪では7月に『しもすわ人形劇まつり』を行っており、飯田の規模には及ばないものの今年で18回を迎え地域の方々から期待や励ましもありリピーターも増えてきています。赤とんぼも『しもすわ』が終われば次は『いいだ』だと張り切っています。

次号は長野県「ホーボズバベツシアター」の服部哲さんです

Library Cafe 飯田とつながる世界の人形劇図書資料から⑦

みちのくから沖縄まで日本縦断『生きている人形芝居』

1960～90年代は、さまざまな人形芝居の企画・展示があり、これは展示と実演を合わせ、東京(銀座・玉川)、大阪(阪神)、横浜(高島屋)、名古屋(松坂屋)5か所のデパートを会場に4-9月まで巡回した、その図録で記録としても素晴らしい内容。『三人遣い人形浄瑠璃』のみでなく豊かな人形芝居があることを知られるまたとない企画であり、津軽の『金豆蔵』や猿倉の『貴鉄和尚・鬼神のお松』などは大喝采だった。残念なことに伊那谷の人形芝居は地元での上演が重なったのか展示も不参加だったが、今後こうした人形芝居の企画がより大きな展開をもたらせると期待したい。

(人形劇の図書館館長・湯見英明)

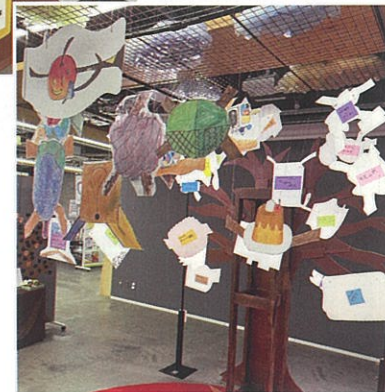


表紙は猿倉吉田千代勝の貴鉄和尚
朝日新聞東京本社企画部編 1981年



人形たちとつくるコミュニティスポット ほっこり

『りんごアートプロジェクト展 自由の木』
ほっこりと協働活動を行っている一般社団法人ソーシャルデザインプロジェクトのりんごを利用する子どもたちと、どんな実がなるのかな?をテーマに作品づくりに取り組ましました。キットパスを使い、色の配合や描き方などを学びながら完成した作品は唯一無二。鑑賞した方々からは「夢がいっぱい詰まっ



ムトスぶらざ2Fに展示した『自由の木』。"からあげ大盛とごはん大盛"読みたい本が出てくる機械"など、子どもたちが考えたさまざまな実がつけました

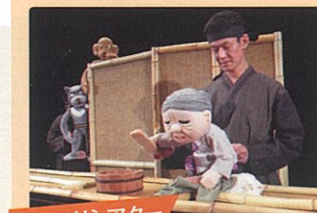
ている」等のメッセージが寄せられ、参加してくれた子どもたちは自己肯定感を高めることができました。



ミニライブ

11月9日(土) 14:30～15:30

音楽と人形劇のひととき
出演:羽化連、人形劇団なむなむ
料金:300円 定員:20人

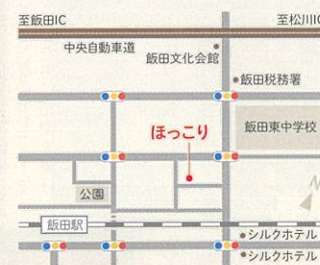


ほっこりシアター

12月14日(土) 14:30～

人形劇団むすび座
「トッケビ・鬼ヶ島と呼ばれた島」
料金:200円 定員:20人

※いずれも事前予約必要
申込方法:①お名前(年齢) ②電話番号
を入力してメールにて
E-mail hokkoripuppet@gmail.com



お問合せ
NPO法人いいだ人形劇センター
☎050-3583-3594 担当:木田・後藤
hokkoripuppet@gmail.com



開所時間:第1・3木曜、第2・4土曜
14:00～17:00
料金:100円。時間内は自由に出入りできます
場所:飯田市高羽町2-5-1
駐車場はお問合せください



完成した人形をさっそく操ってみました

つくってみたよ/ 糸あやつり人形

飯田市座光寺の竹田扇之助記念国際系操り人形館は、夏休み期間中に小学生を対象にした糸操り人形をつくるワークショップを開催しました。同館職員が用意した材料を組み立て、糸を通してバランスをとり、毛糸や折紙などで装飾をして世界でつだけの人形をつくりました。「糸を通すのが難しかったけれど、いろいろ飾り付けができて楽しかった」と参加者。初めて開催したワークショップに手応えを感じた職員の皆さんは「今後は人形の操り方も伝えられる内容にして開催したい」と話していました。

竹田扇之助記念国際系操り人形館

9月に展示替えを行い、1974年にNHKで放送された『百合若』と、1966年の作品『鶴の笛』などがメインで展示されています。竹田人形座竹の子会による糸操りの実演や操作体験もできます。



開館時間:9:00~17:00

入館料:大人400円、小中高生200円

休館日:月曜、祝日の翌日、年末年始

問合せ:☎0265-23-4222

(飯田市座光寺2535)



人形館の職員が材料を準備し、つくり方をわかりやすく説明。コントローラーである「手板」と人形に糸を通すにも順番があり、参加した子どもたちは慎重にすすめていました



フェスタのPRにと飯田市役所に人形劇団えりっこの人形を展示していただきました

いいだ人形劇フェスタ2024のオープニングセレモニーで上演した『ふしぎの森のヤーヤー』



らの上演の合間を縫ってひとつでも多くの人形劇を鑑賞しようと思き回った。すると今年は、ニュースや新聞を見た親子さん、人形劇人に声をかけられ、ちょっと嬉しい気分。なんと放映されたニュースを録画していた飯田市民に声をかけられ、私のスマホに送ってもらうという出会いも、恐るべしいいいだフェスタ!!

同じく人形劇場のある街、札幌市在住の劇団として、飯田は憧れであり、フェスタは人形劇人にとってご褒美のような時間なのだ。

ダコタのIIDA日記

Journal de Dakota

ダコタ・ミドウ 2022年5月に仏シャルルヴィル・メジェールから飯田へ。飯田文化会館で通訳や翻訳、海外とのやりとりを担当。飯田での生活の中で見たこと、感じたこと、人との出会いなどを綴ります。



家族との飯田観光

こんにちは皆さん!

この秋に家族が初めて日本に来ました。東京へ迎えに行き、飯田へ移動しました。1日目は市内の神社を回った後で、川本喜八郎人形美術館を見学しました。スタッフさんの案内を家族にフランス語で通訳してあげました。ふるさとも“人形劇の街”ですけど、ふだんから人形劇関係のものを見に行こうとは思っていないです。ですので、家族が人形劇のことをもっと知りたくなったと言っていたのが本当に面白かったです。操る体験もできて、その難しさも感じられました。

次の日は竹田扇之助記念国際系操り人形館へ行きました。展示を見て、竹田人形座竹の子会の公演も見ました。家族は



川本喜八郎人形美術館を見学しました



日本のお寿司は本当においしいです。特にマグロとイクラがおいしかった

やっぱり凄かった
いいだフェスタ

全人協通信
専門人形劇団事情⑬

地域劇団の
つづやき

人形劇団えりっこ
坂下絵李古

一般社団法人
全国専門人形劇団協議会(全人協)
人形劇の普及と芸術性の向上をはかり、人形劇表現への理解と支持を広げることがめざし、1997年に発足。44劇団が加盟しています。

飯田人形劇場での公演は2回目だ。でも今年は特別、何といってもフェスタのオープニングセレモニーでの上演である。

北海道の夫婦劇団、いわば地方弱小劇団の我々にとって、大変に光栄なことであると同時に、例年とはちがう緊張感が伴う舞台となった。そして、フェスタの真骨頂は上演後に訪れたのだ。数々のプレスの取材、次々とマイクを向けられ、しどろもどろの私。プロとしての人形劇人生四五年目にして初めての体験である。こうして今年の人形劇フェスタの開催は広く発信され、参加証ワッペンを付けた人々の笑顔が、いいだの夏を彩るのだ。

さて、その日からの我々は、例年通り自

日本列島 人形劇祭の旅



屋外イベントスペースの「ふれあいマルシェ」には地場産品がならびます

浜松市いなさ人形劇まつり

浜松市いなさ人形劇まつりは今回で36回目の開催を迎え、プロ・アマ人形劇団合わせて16劇団が参加し、延べ28公演が上演されます。屋外では野外イベントスペースを設け、ステージでは地元小中学生・地域団体等が太鼓やダンスでまつりを盛り上げてくれます。また、いなさふれあいマルシェとして地元の食べ物や特産品を販売し、食事や買い物も楽しめます。これまで、継続できたのも、実行委員をはじめ地元小中高生・大学生や地域団体・地元企業の皆さんの協力があったからです。



実行委員だけでなく、地元小中高生たちもまつりを支え、盛り上げて来ています



静岡県牧之原市在住の「茶間屋ショージ」さん。人形劇団だけでなくお農家も営んでおり、まつりには毎年参加してくれています

はじめは、平成元年になります。当時、ニールランド出身のマックギルさんという影絵人形劇のプロが引佐町に住んでおり、町内で公演をしていました。その頃、政府が提唱した「ふるさと創生基金」の1億円の使い道を町民から募集したところ、人形劇を普及したらどうかという意見があり、この基金を使い全国からプロの人形劇団を集めて人形劇フェスティバルを行ったのが「いなさ人形劇まつり」の始まりです。そして、最初の頃は千人程の観客が、第12回には1万人を超えるまでになりました。近年のコロナ禍ではライブ配信の手法で無観客ではありましたが、多くの方に観ていただき、まつりを継続してきました。これからも、多くの人に「人形劇の世界」を楽しんでいただけるよう実行委員が中心となり地域の皆さんと共に継続していきたいと思っています。

浜松市いなさ人形劇まつり実行委員会事務局 内山直彦

DATA

主催：浜松市いなさ人形劇まつり実行委員会

第1回は平成元年。毎年11月第2土・日曜日の2日間開催

今年の「第36回浜松市いなさ人形劇まつり」は11月9日(土)・10日(日)に開催

会場：浜松市引佐支所、引佐多目的研修センター

問合せ：浜松市いなさ人形劇まつり実行委員会(浜松市引佐支所内)

☎053-542-1112

並木 さんぽ

長野県内へ人形づくりワークショップに出かけること3年。同じ地域へ出かけること「楽しみにしていたよ」と再会に感謝。「また来てね」「次はどんな人形をつくるの?」と、うれしい質問攻めの子どもの目はキラキラ。大事にしたい時間です。

次号は2025年1月発行予定です。

(帆)

掲示板 いいだ人形劇センターからのお知らせ

チェコの人形劇が飯田へやってくる チケット販売中

今秋開催、世界の優れた作品を鑑賞する「せかいの劇場」は、チェコのナイブ二人形劇場「こいぬと機関車-CHOO CHOO WHISTLE WOOF!」がやってきます。子どもも大人も楽しめる、友情と冒険のセリフのない物語です。

- 日程：11/29(金)19:00開演、11/30(土)10:30開演
- 場所：飯田人形劇場
- 料金：大人2,000円、こども(2歳～中学生)1,000円、おやこ(大人+こども)2,500円
- ※2歳未満無料、当日券各300円増
- 問合せ：いいだ人形劇センター ☎050-3583-3594

